

2021年1月21日(木)第7回アクラスZOOM寺子屋

「第6回寺子屋の続編 ワークショップ&対話を愉しむ 言語教育から民主的シティズンシップ教育へー民主的な方法で市民性を育むー」

《ワークショップ》 対話を積み上げる

名嶋義直(琉球大学)

趣旨説明

「政治教育」のローカライズ

- ドイツの政治教育（民主的シティズンシップ教育）を日本へ
- 政治教育（民主的シティズンシップ教育）を言語教育へ

基本理念

ボイテルスバッハ・コンセンサス

(der Beutelsbacher Konsens)

(1) 圧倒の禁止

生徒を期待される見解をもって圧倒し、自らの判断の獲得を妨げることがあってはならない。

(2) 論争のある問題は論争のあるものとして扱う

学問と政治において議論のあることは、授業においても議論のあるものとして扱わなければならない。

(3) 個々の生徒の利害関心の重視

生徒は、政治的状況と自らの利害関係を分析し、自らの利害関心にもとづいて所与の政治的状況に影響を与える手段と方法を追求できるようにならなければならない。

このワークショップに、ボイテルスバッハ・コンセンサスをローカライズしてみる (der Beutelsbacher Konsens)

(1) 圧倒の禁止

- 一つの正しい意見を探すよりも、それぞれの意見を分かり合うために「対話」する
- 他の人の発言が聞けるように、一人で話しすぎない

(2) 論争のある問題は論争のあるものとして扱う

- 他者の意見を、自分の意見との類似点や相違点を探しながら聞く
- 相手の意見と自分の意見が違う場合は、どうして違うのか(根拠)を考える

(3) 個々の生徒の利害関心の重視

- 自分ごととして自分に引き付けて考える

軽くウォーミングアップしましょう

「民主的シティズンシップ教育＝政治教育」とは、どんな教育だと理解していますか。

自分の言葉で話してみましよう。

まずひとりでどんなふうに話すか考えてみましよう。

対話しましょう

(5分)

ワークショップ1:「どうしよう？」

- (1) 毎日の生活の中で「腹が立ったこと」「嫌な気持ちになったこと」「問題だと思ふこと」などを何点か挙げましょう。
- (2) なぜそのような問題が生じるのでしょうか。
原因や理由を考えてみましょう。
- (3) どうすればその問題を解決できるでしょうか。
- (4) どこにどういう窓口や相談先がありますか。
- (5) それらは結局のところ、何についてのどういう問題だと言えるでしょうか。抽象化して捉え直してみましょう。

対話しましょう

(10分)

対話の先にあるもの

「どうしよう？」の狙い

- 「身近なところにある政治」に主体的に関わろうとする姿勢を持ち、社会のリソースを知ることによって具体的な行動の起こし方がわかるようになる。
- 社会からの視点で「身近なところにある政治」を捉え直してみることで、「政治」について考えることができる。
- 社会の問題と関連づけて抽象化した「政治」を再度身近なところに戻して考えることによって、「政治」がさらに身近なものであることに気づく。

ワークショップ2:「これって政治？」

- (1) 資料に書いてあるのは新聞の見出しです。見出しを読んで記事の内容を想像し、政治的な内容だと思うものと政治的ではないと思うものに分けましょう。分けた根拠をことばにしてみましょう。
- (2) 政治的な記事に分類したものを、「家族」「学校」「会社」「社会」「自治体」「国」などの分野にさらに分けてみましょう。また、(1)でその内容が政治的ではないとした記事があれば、それが非政治的かどうか、もう一度考えてみましょう。
- (3) (2)でラベルとして使ったそれらの分野に入る、よく似た他の事象を身近なところから探して挙げてみましょう。

あとで、全体でシェアします。
グループで話し合ったことを
書き留めましょう。

対話しましょう

(15分)

全体でシェアしましょう。

どんな分け方をしましたか。

「政治って何？」の狙い

- 「政治」が私たちの日常の生活の中に入り込んでいることに気づく。というか、日常生活自体が「政治」
- 様々な話題をめぐって他者と対話をすることによって、その内容を多角的に捉えることができるようになり、それによって話題の理解が深まったり広がったりする。
- 類似の他の事象を探すことで、社会を今までとは違った側面から捉え直すことができる。

一人ひとりが「民主的な市民」になる

私たちの生活はすべて「政治」

地域で共に生きて行くことも「政治」

「市民」として社会に参画していくことももちろん「政治」

教育に関わる全ての人々が、「政治性」を意識することが重要

それぞれの教育現場で「政治性」を育てる「民主的シティズン

シップ教育」を！

「そんなこと言っただって簡単には...」

- 自由にやりたい授業ができるわけではないし...
- 上司やコーディネーターにはわかってもらえそうにないし...
- やってみたいと思うけど、なにからはじめればいいのか？
- こんな問題やあんな壁があるんだけどどう乗り越えたらいいの？
- 学生が全然乗り気にならないんだけど、なんかいい方法あるかな。
- 私はやりたい課題いっぱいだけど、他の皆さんはどうなのかな。
- なんとか政治の話を授業でしたいんだけど...
- 立場とか価値観とか違う人たちで対話ができるといいんだけど...
- 語彙や文法、発音などに問題あったら対話なんてできないでしょ。
- 能力試験や入試があるのに、市民性とか言っただって無理でしょ。

全体で対話を愉しみましょう。

ボイトルスバッハ・コンセンサス (der Beutelsbacher Konsens)

(1) 圧倒の禁止

生徒を期待される見解をもって圧倒し、自らの判断の獲得を妨げることがあってはならない。

(2) 論争のある問題は論争のあるものとして扱う

学問と政治において議論のあることは、授業においても議論のあるものとして扱わなければならない。

(3) 個々の生徒の利害関心の重視

生徒は、政治的状況と自らの利害関係を分析し、自らの利害関心にもとづいて所与の政治的状況に影響を与える手段と方法を追求できるようにならなければならない。

このワークショップに、ボイテルスバッハ・コンセンサスをローカライズしてみる (der Beutelsbacher Konsens)

(1) 圧倒の禁止

- 一つの正しい意見を探すよりも、それぞれの意見を分かり合うために「対話」する
- 他の人の発言が聞けるように、一人で話しすぎない

(2) 論争のある問題は論争のあるものとして扱う

- 他者の意見を、自分の意見との類似点や相違点を探しながら聞く
- 相手の意見と自分の意見が違う場合は、どうして違うのか(根拠)を考える

(3) 個々の生徒の利害関心の重視

- 自分ごととして自分に引き付けて考える

この対話の先にあるもの

わたしたちの「民主的シティズンシップ」を高める

- 批判的思考（一歩立ち止まってあれこれ考える）
- 主体的参加
- 多様性への寛容さ，他者との対話
- 実践力（スキルやノウハウ，行動力）

時間はかかるが、世界は変わる

- 日本語教育の世界も少しずつ変わってきている。
- 社会もどんどん変わってきている。
- まだまだ障害や障壁も多いけど、
- 諦めずに、
- 少しでもいいので継続して、
- 「市民」として動いていきましょう。
- 仲間を増やしましょう。

今日はこれでおわりです。

明日から、ぜひご自身の「場」で「民主的シティズンシップ教育」を実践してください。

ご参加くださり、ありがとうございました！

参考文献

近藤孝弘 (2009) 「ドイツにおける若者の政治教育」
『学術の動向』14-10: pp.10-21. 公益財団法人日本
学術協力財団,
<https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/14/10/14_10_10_10/_article/-char/ja> (2021.1.21リンク確認)